

「第3回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」会議録

1 開催日時 平成30年8月28日（火）10時00分～12時15分

2 開催場所 金杉台中学校多目的室

3 出席者

金杉台中学校 校長、学校評議員 2人

金杉台小学校 校長、学校評議員 2人、PTA 3人

教育委員会 管理部長、管理部 教育総務課課長、学校教育部 学務課長
（事務局）教育総務課2人、学務課1人

4 会議録

※個人に関する情報等を考慮し、発言の一部について〔略〕と表記しています。

※学校評議員、PTAの発言を【出席者】としています。

※（ ）内は訂正又は主旨を踏まえ補足として教育総務課が加筆したものです。
会議録は以下のとおり。

【事務局】

それでは、「第3回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」を始めさせていただきます。本日はお忙しいなかお集まりいただき有難うございます。

まず、資料の確認をさせていただきます。次第、それから、ホチキス止めの【資料1】、【資料2】、考える会ニュースNo1・2 合併号が、それぞれ御手元にありますか。

なお、御手元に封筒をおかせていただきました。中には前回の考える会の議事録が入っております。ご案内の紙も入れてありますので、何かございましたら、恐れ入りますが、1週間を目途に教育総務課担当までご連絡くださいますようお願いいたします。

今日ですが、小学校のPTAからは〔略〕がお越しいただいておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、次第に従い進めさせていただきます。なお、この会のやりとりについては、議事録を作成いたしますので、録音させていただきます。

まず、【資料1】の1ページをご覧ください。第2回考える会で挙げられた意見についてです。金杉台中学校での取組については、前回の考える会で、生徒数を増やすなどのために、これまでどのような対応をしてきたのかという質問がございました。この点について整理してまいりましたので、学務課長よりご説明いたします。学務課長、お願いいたします。

【学務課長】

平成21年度から10年間の取組について、ご説明いたします。

平成21年度に、金杉台中学校が全学年1学級となったことから、生徒数の増加や教育環境の充実を図るために行ってきたということで、ご説明いたします。

まず、生徒数に直接関わる取組といたしまして、通学区域について記載してございます。

1つ目の平成21年からの選択地域の設定というのは、金杉台中学校の生徒が全学年1学級となったことから、御滝中学校の通学区域の中で金杉台中学校を選択できる区域を拡大したものであります。この効果もありましてか、その後、一部の学年で2学級となることもありましたが、平成26年度以降は全学年1学級が続いております。

次の、通学区域の変更ですが、平成30年度は、二和小学校と周辺小学校の通学区域の変更に合わせて中学校の通学区域も変更したものです。規則の改正は行いましたが、変更した地域は変更前も変更後も金杉台中学校か御滝中学校を選択する地域のままでしたので、実際には大きな影響はないものと思われます。

次から記載した取組は生徒数には直接関わりませんが、教育環境の充実を図るために行った取組でございます。

まず、教職員については、千葉県で学級数に応じて職員の数が決められておりますが、それ以外に加配教員、少人数を担当する教諭だとか、技能教科の先生が、金杉台中の学級数では置けない場合に、その教科を受け持つ教科担任講師の配置を千葉県教育委員会へ要望し、配置してもらっているところでございます。

そして、このあと記載されているものは、すでに皆さんもご存じのものと思いますが、平成20年度から5年間は小中連携教育の研究指定をし、公開発表を行なったところであります。

また、琴・和太鼓の指導、小中合同運動会、駅伝競走大会の合同練習、小学校6年生が中学校の給食体験を行うなどの特色ある取組を行ってきたところでございます。以上でございます。

【事務局】

生徒数を増やす取組としての通学区域の変更等の話、職員加配の話、それから教育の中での小学校との取組の事例等の話をさせていただきました。

この点について、何かご意見等ございましたらお願いいたします。

【出席者】

平成30年度の通学区域の変更について、具体的な内容を簡単に。

【事務局】

元々、二和小学校の通学区域の変更が一番の目的でして、それに合わせて、二和西の、【資料2】の1ページに紫の枠が上と下と二つありますが、上の枠の中の水色部分がほとんど対象地域になると思いますが、元々、金杉台小学校と二和小学校の選択、中学校が御滝中学校と金杉台中学校の選択の地域だったのです。規則上は、二和小と御滝中の学区だったのですが、小学校は金杉台小の単独学区に変更しました。それに合わせて金杉台中が基本学区で、御滝中も選択できる地域と変更しています。規則上はそのような変更がありますが、実質選べる中学校は金杉台中学校と御滝中学校で変わりませんので、中学校については実質的には変更はなかったことになります。

【金杉台小学校校長】

小学校に関しては確かに、二和小学校において保護者説明会もきちんとしていますよね。中学校はどこかでやったのですか。

【事務局】

二和小学校で、説明会などは開催しました。

【金杉台小学校校長】

あのときは、小学校は変わるけど、中学校は変わらないという話でしたよね。

【事務局】

規則は変わりますが、選べる学校は変わらないという話だったと思います。

【金杉台小学校校長】

小学校は変わるけど、中学校は今までどおりという話でしたよね。

【事務局】

中学校は、選べる学校は変わらないけど、規則上は変更になっています。

【金杉台小学校校長】

規則上の変更を皆さんに周知はしてないですよ。

【事務局】

規則上の周知をしたかどうかということですか。

【金杉台小学校校長】

小学校はやりましたが、中学校はやっていませんよね。

【事務局】

地域の皆さん全てを対象にしていたので、説明の内容としては、小学校は変わるけれども、中学校は選べる学校は変わらないですという説明をさせていただいたと思います。

【金杉台小学校校長】

中学校は現状どおりという話でしたよね。

【事務局】

そうですね。

【出席者】

ということは、平成30年度の通学区域の変更は金杉台中には全く関係ないということですかね。

【事務局】

規則上の変更はありましたが、実質的には変わらないということです。わかりにくくて申し訳ありません。

【出席者】

それが保護者にどのように伝わったかという点、恐らく、今までと変わらないんだという解釈で伝わったはずですよ。本当は金杉台中学区なんですよということを明言すべきです。実質的には変わりませんということは、その人達が決めることであって、規約（規則）が変わりましたという明言はされましたか。

【事務局】

チラシをお配りするときに、規則が変わりますということはお知らせしていますし、順番が前後しますが、通知するなかで、基本学区や選択地域という詳細なお知らせはしていないかもしれないです。

【出席者】

私の地域は選択できない地域なんですけど、選択できる地域の保護者は今までと一緒にだという解釈だと思いますよ。

【事務局】

選択地域の方は基本と選択をあまり意識していないと思うんですが、説明の中でも選択する学校は変わらないという説明の仕方をさせていただいたと思うので、そこを細かく説明はしていないと思います。

【出席者】

こうやって、中学校の考える会というものを立ち上げて、力を入れていると思う。であれば、そういうこともしっかり伝えなければならないんじゃないかと私は思います。

【出席者】

行政の説明で、どちらでも変わらないという説明がよくないと思います。規約（規則）は大事じゃないですか。基本があって、幅を持たせますというのはいいと思うんですよ。でも、規約（規則）が変わったことはしっかり伝えるべきだと思います。水色の方々は、小学校が金杉台小学校になったという解釈しかしないと思います。本当は金杉台中学校に行かなければいけないけど、選べるから御滝中でもいいんだよと。これから、もし、機会があれば、規約（規則）が変更になったということを伝えていってもらいたいです。私たちは存続を求めてこの場に座っているわけですから。

【金杉台小学校校長】

くどいようですが、二和小の説明会の後の質問のときに出たんですよ。確か、〔略〕が、小学校の学区を変えて中学校の学区を変えなければ意味がないじゃないかと発言したと思うんですよ。私もその場にいたんですよ。「今回については小学校の学区を変える話だ、中学校については一切考えていない。」というご回答だったと思うんですよ。だから、こうやって書いてあるとどうなのかなと。

【事務局】

当時、その場にいたわけではないのですが、平成28年度に2回ほど開催させていただいたと思います。その場で、実質的に選べる学校は変わらないですよという説明をさせていただいていたのだと思います。その地区には二和小に通

っているお子さんもいたと思うので、卒業するときになくなるのかというときに、選べる学校は変わらないという説明をさせていただいたと思います。今回の話はそれだけではなく、規則上、基本と選択が変わっているという説明もするべきだということだと思うんですが、その場では、そういう説明だったんだと思います。

【出席者】

二和小学校の学区を金杉台小学校に変えるときに、中学校も金杉台中ですとはできなかったのですか。

【事務局】

できなかったというか、選択はそのままにしていたので、選べる学校は変わらないという説明のほうがご安心いただけるという意図だったんだと思います。

【出席者】

選択地域の中で小学校区が変わっただけなのであれば、ここには載せないほうがよい。

【出席者】

説明会に出たわけではないのですが、釈然としませんね。小学校区が変わっただけで中学校を切り離しているということは、当時から金杉台中学校をどうしようかという議論は内部で始まっていたと思うのですが、二和小学校区が変更になったということは、二和小学校区で住宅が増えて、二和小学校が飽和状態になったことを受けての学区変更だと思うのですが、違いますか。

【事務局】

そのとおりです。

【出席者】

金杉台小学校区が増えたということは、金杉台小学校に通う子が増えたということで、金杉台小学校は金杉台中学校と御滝中学校の学区ですよ。規約（規則）では金杉台中学校に行くのが本筋だと変更されたわけですよ。質問されたのは、多分、二和小の在学生の保護者の方だと思うのです。今までは金杉台中学校という選択肢がなかった。御滝中に行くつもりだったのですが、自分の子供たちはどうなるのですかと心配になったから尋ねたと思うんですね。それに対して安心感を与えるために変更はありませんという説明になったと思うん

ですけど、規約（規則）はきちんと説明しなければいけないんじゃないかと思うんです。事実ですから、事実をちゃんと伝えて、選択ができますよということを伝えるべきだと思います。金杉台小学校区が増えるということは金杉台中学校に来る子供たちが増えることですので。

【事務局】

説明会については2～3年位前の話で、それを今から説明ということは難しいと思うんですが、今回、これから考えていただくうえで、選択地域の中にこういう地域もあるんですよということを知っておいていただいたほうがいいかなということで、ここに入れさせていただいています。選択地域の中にも昔からの金杉台と御滝の選択地域もあり、金杉台中のために広げた区域もあれば、小学校の学区にともない変わった地域があるなど、色々な種類があるということをご案内したほうが良いと思って資料の中に載せさせていただいています。

【金杉台小学校校長】

平成28年11月12日土曜日午後4時から5時半まで行われているんですね。そのときの議事録が手元にあります。こんなふうになっています。「二和小学校から金杉台小学校に変更する地域については、小中連携を図る必要があることから中学校区についても基本、御滝中から金杉台中に変更する必要がありますが、今回は、小学校の教室不足を解消するためのものであり、同地域については、引き続き御滝中を選択する地域にしたいと考えている。」

【事務局】

始めに申しあげたとおり、基本学区は金杉台中に変更する必要がありますが、御滝中を選択できる区域にしますという説明をしているんだと思います。

【事務局】

他に何かございますか。なければ、次に移りたいと思います。

次も、同じく第2回の考える会で挙げられたご意見に関してです。前回ご説明しました推計結果に関して、周辺の宅地開発が反映されているのかというご質問がございました。口頭で説明は致しましたが、資料がなかったため理解しにくい部分があったかと思われます。申し訳ございませんでした。本日は資料でご説明させていただきます。金杉台中に加えて、近隣校である御滝中の新しい推計結果についてもご説明をさせていただき、それに伴い、ご説明が必要な点もございますので、順次、ご説明をいたします。

【教育総務課長】

それでは、【資料1】の2ページをお開きください。また、【資料2】の2ページ、3ページに詳しい推計方法を示してありますので、そちらは後でご覧ください。

では、【資料1】の2ページ、推計についての、①推計の作成方法と補正率について、ご説明いたします。

推計は、毎年5月1日現在の各学校の学区内の就学前の子供の数を数えることから始めます。

ここで、複数の学区を選択できる地域の児童数についても、直近5年間のそれぞれの学校の選択率の平均値により按分し、加えております。これが、推計の基礎となる数値となります。

次に、各年齢で、前年度の1歳若かったときの数に比べて、増えているのか、減っているのか、増減率を算出し、さらに、その直近5年間の平均値を求め、年を重ねる1年間の社会増減を補正率として算出します。これが、その学区内における人口移動の傾向といえます。補正率が1より大きい場合、全体として、児童生徒数が増加する状況であると想像できます。

さて、未来の児童生徒数の推計は、今時点の就学前の児童が、毎年、年を重ねて小学生や中学生になるときの人数を計算するわけですが、今後もその傾向が続くであろうと見込み、補正率を掛け合わせることになるので、1より大きい補正率を掛けた場合、推計値は、現在の数値に比べ、大きい数値となるわけです。

ちなみに、小学校6年生から中学校1年生に進学する際の補正率は、社会増減に加え、私立学校への進学や通学指定校変更による通学指定校以外の学校への進学状況も含んでおりますので、ほかの年齢の補正率に比べ低くなっています。

続いて、②開発状況の分析と増加加算について、ご説明いたします。ここでは、今ご説明しました、通常の世界増減とは別に、個別に配慮しなければならない、例えば、大規模マンション開発計画があるような場合の対応についての説明となります。

マンション開発等、一定規模の開発がある場合、過去の事例から入居時の世帯の子供たちの年齢別の構成比がわかっていますので、開発規模に応じて想定される子供の数を算出し、加算するという方法をとっています。

なお、このような大規模開発加算は、今回の金杉台中及び御滝中では該当するものがございませんので、生徒数推計では行っておりません。

以上が推計の基本的なやり方となります。

それでは3ページをご覧ください。

表 1-1 は、前回ご説明しました今年度の金杉台中の推計結果です。平成 29 年度の結果と並べて増減数を比較できるようにしています。左側の太枠内が平成 30 年度、その右側に、学年の内訳は省略していますが、平成 29 年度に作成した推計の生徒数、一番右側に両者の差を示しております。

表 1-2 は、前回お約束しました御滝中の今年度の推計結果についてです。

一番右の推計数の差を見ますと、今年度の推計のほうが大きな数字になっています。この要因として考えられるのは、金杉台中の周辺地域に当たる御滝中との選択地域における宅地開発が影響しているのではないかと考えられますが、昨年度に用いた補正率よりも今年度のほうが高くなっているためです。

以上、生徒数の推計方法や今年度行った御滝中の推計結果についてご説明いたしました。ここで、今年度の御滝中の推計結果から、ご説明を要することが出てきましたので学務課長より説明いたします。【資料 1】の 4 ページをご覧ください。

【学務課長】

御滝中学校の推計に伴う通学指定校変更制度への影響についてご説明いたします。概要は【資料 1】の 4 ページに記載していますが、通学指定校変更制度につきましては、【資料 2】の 4 ページをご覧ください。

通学指定校変更できる基準を(1)から(7)まで記載しております。(7)の下に※印で記載がございますけれども、(5)の距離、(6)の部活動の理由による通学指定校の変更は、希望校の普通教室数に余裕がない場合は認められません。毎年、児童生徒数の推計に基づいて、通学指定校変更にかかる普通教室数に余裕がない学校の見直しを行っております。

御滝中がこのままの推計で推移すると、平成 32 年度には、普通教室に余裕がない学校になる可能性があります。その場合、御滝中へ距離や部活の理由による指定校変更が認められなくなります。説明は以上でございます。

【教育総務課長】

ただ今の説明のとおり、もし、御滝中学校で通学距離と部活動を理由とした通学指定校変更が認められないこととなった場合の生徒数推計への影響については、【資料 2】の 5 ページをご覧ください。部活動等を理由に金杉台中から御滝中へ通学指定校変更すると推計した数を金杉台中に加えたものが表 2-8 です。表 2-9 は金杉台中へ加算分を御滝中の推計数から減らしたものです。御滝中では学級数が減少する年度も出ていますが、金杉台中の学級数には影響しない数の移動という結果となっています。以上でございます。

【事務局】

前回の推計の説明、新しい御滝中の推計結果、それに伴い、この推計の状態だと通学指定校変更に制限がかかる見込みであるとの説明です。これに関して何かご質問はございますか。

【出席者】

この推計は、今年度の二和小学校区から金杉台小学校区への変更も含めての推計ですか。

【事務局】

そのとおりです。

【出席者】

御滝中の生徒数のリミットは何人ですか。

【教育総務課長】

教室数の上限が28です。人数では1,000人程度です。

【出席者】

御滝中学校が平成32年度から余裕がなくなるという推計ですよ。金杉台中学校は1クラスのままで、御滝中学校に行かれなくなるということです。通学指定校変更で行けなくなる。であれば、一小一中が確立されるということでもよろしいんじゃないでしょうか。

金杉台小学校の子供たちが御滝中学校じゃなくて、しかも、(金杉台中学校が)なくなり、御滝中学校にしか行けなくなるというのであれば、今度は御滝中学校の問題になってきますよね。

【教育総務課長】

部活動を理由に御滝中に行けていた子が、それを理由には行かれなくなるので、金杉台中に行かざるを得ないと。

【出席者】

金杉台小学校区に変更になった子供たちが、最初から規約(規則)上は金杉台中学校区なんですよということを入学当時から知っていれば、金杉台中学校に流れるようになるわけですよ。本来の規約(規則)にのっとって動くとなれば。それを入れて1クラスという推計はちょっとおかしい推計だと思うんで

すよ。

団地も空き家が2割ありますが、そこに若い人達を呼び込もうと自治会も動いているわけですよ。団地の中に学校がなくなるということは、地域の問題にもなってきますよね。本当に学校一つをなくしてもいいんですか。

【教育総務課長】

金杉台中と御滝中を選択できる地域から金杉台中に流れるといっても、選択率という過去の傾向からみますと、御滝中へ行く子もおりますので、全員が金杉台中に来るということは推計上入れられないんです。

【資料2】の5ページを見ていただいてもわかるとおり、部活動の理由で御滝中に行けなくなって、金杉台中に皆さんが来たとしても、金杉台中としては、ずっと単学級が続くという今の状況は変わらないわけです。

そうした場合、子供たちの学習環境がこのままでいいのだろうかという、最初の出発点、条件は変わらない状況になっています。

【出席者】

御滝中が飽和状態になるのは推計で可能性としてはあるわけですよ。そのときに選択地域を残してはオーバーしますよね。その時点で選択地域をなくして金杉台中へということはできないんですか。

【出席者】

そうやって増やして活気づけようっていう会じゃないの。

【出席者】

そうやって金杉台中しか行くところがなくなれば、生徒が増えて部活動も安定してくるし、できなかったことができるようになって、教職員の数も安定してくるわけですよ。というふうに、持ってこないですか。

【教育総務課長】

そのお話について、選択地域の生徒さんがみんな金杉台中に来たらどうなるかというのは、前回、その推計をお示しまして、結局増えなかったという結果でした。

【出席者】

選択地域をなくして、中学校の学区を見直すというという選択肢はないんですか。金杉台中学校を残そうという選択肢はないんですか。もっと広げるとい

うことは。新たにまっさらにして、全部を見直すということです。

【管理部長】

前回の資料にあります、全体の学区の真ん中に御滝中があり、どれだけ金杉台中学校の学区を広げても、御滝中のそばの方にも金杉台中に行ってくださいというのは、なかなか言い難い。この辺がぎりぎりだろうという結果、最大6学級にはなるけれども、その先に3学級に戻ってしまう。

御滝中は減るということはあるんですが、金杉台中はそれほど増えないというところがあります。

【出席者】

その何年間かは6学級で、その後3学級になるかもしれないけれど、ならないかもしれない。御滝中にない部活が強いなどとなれば、また違う。

【出席者】

保護者としては、選択できる地域があることが疑問なんです。部活でバスケットがやりたいから、金杉台中の区域なんだけれど、御滝中に部活で行った子がいるけれど、人数が多く、部活も厳しく、友達になじめなくて、結局、バスケット部を辞めてしまったが、転校するわけにもいかず、残るためには、別のやりたくない部活をやらせなければならないという。中学生にとって、部活は行ってみてやってみないと分からない。人間関係もあるし、上下関係もある。その子は苦しんでいて、やりたくない部活に今は入っている。選択できる地域はそもそもなんか・・・

【教育総務課長】

選択できる地域のお子さんは、そもそも部活をやりたいから行くではないですよ。部活を理由に申請するのは元々金杉台中の学区の子ですよ。

【出席者】

選択ではなくて、金杉台中学校にない部活を申請して御滝中に行く子がいることがそもそも、どうかと。

【教育総務課長】

選択ではなくて、部活を理由に申請するのは元々金杉台中の学区の子ですよ。

【出席者】

金杉台中の子がきちんと入ってくれば、部活も人数が増えればできる。

【出席者】

中学生に部活を辞めたから、違う部活をやらせる、苦しいですね。中学生生活は3年間しかないのに。かわいそう。

【教育総務課長】

逆に、部活を理由にして御滝中に行くというのは金杉台中の学区の子でして、そもそも御滝中の学区の子はそういう縛りがない。

【出席者】

そういう縛りがないのが当たり前。

【出席者】

御滝中の実情も知りたいのですが、御滝中の人がこの場の話し合いにいないんでしょうか。今の教頭先生は御滝中の教頭先生を何年かやられていたんですよね。事実を知っていらっしゃる。ちらっと聞くと、そういう苦しんでいた子もいるという、そういった話も聞くべきでは。

【教育総務課長】

そもそも、部活を理由にして、御滝中に行かなくても、御滝中の学区の中に入ってしまうと思います。

【出席者】

そうではなくて、ここに（御滝中と同じように）女子バスケがあれば、そういう選択をしないで済む。金杉台中に来ることができる。こっちにも活気づいている部活があれば、行かなくて済む。

【出席者】

表2-8を見ますと、平成36年度までは、20人以上は確保されている。残そうという方向なら、残す案はいくらでもある。

【管理部長】

20人確保できているといいますけれど、1学年20人しかいないという学校で、仮に（学区などの対応策によれば）推計上6学級までなりますが、1学年50人

という学校があったとして、男女仮に半数としても25人ずつ。今の時期ですと部活動は1・2年生でやるとして、仮に男の子が50人。サッカーやりたい、バスケやりたい、野球やりたい、でも全てきれいに分かれるわけではないですよ。もちろん文科系の子も、帰宅部の子もいるかもしれない。野球部は9人だけでやるのはかなり厳しいかもしれないけれど、うまい具合に野球部9人、バスケが5人、サッカー部11人となるかということ、なかなかそうはいかない。野球とバスケが存続できたとしても、サッカーやりたい子もいるわけで、なんでもいっていいわけではないんです。満足に人数が揃っている部活が5つあれば、6つ目がなくても仕方ないだろうとなりますが、試合に出られるなど2つぐらいしか部活が成り立たないとすると、ほかの部活をやりたい子にとっては、満足が得られないことで、御滝に行きたいという子も出てきます。仮に御滝に行きたいという場合に先ほどの指定校変更をすることで中学生に背負わせるにはつらいものがあるということもあります。小規模校は、部活をやりたい子にとって幸せな環境なんだろうということも一つの面として考えます。

プラス、今はクラス替えがない状況。20人いるといわれますが、男女10人の中で、人間関係をうまくやっていかなければならない。規模が大きい学校であれば、先生方は、人間関係がよくないときにはクラス替えで配慮すると聞いたことがあります。相性が悪いときはクラスを分けるということもできますが、ここでは同じメンバーで3年間行く。ある子にとってはつらいかもしれない。小規模校のデメリットというのを教育委員会は考えてしまいます。

地域にとって学校はあってほしいというのはわかります。幸い小学校は残るということと、ここに学校があればいいということには避難所があることが大きい。

中学校という機能がなくても、避難所機能を残すことができないだろうか、仮に統合したとしたら、跡地をどう使っていけば地域にとってためになるのだろうか、考えなければなりません。

地域にとって必要な学校を残すために、そこにいる子供たちが悲しむことになったとしたら、それは大人としてどうなのかなと思います。

【出席者】

今の制度の中でやると、この推計になるというんですよね。そのなかでどうしても部活という話に集中しますが、子供っていうのは、中学校にどっちに行こうかというときに、今後の金杉台中学校を考えませんよね。今後の自分を考える。そのなかに、友人関係もあります。やりたい部活、勉強もあるでしょう。そういうのをミックスしたうえで、どっちを選ぶか決めるんだと思います。そこに親御さんの意見も入ると思います。

【管理部長】

公立中学校でA校B校どちらの学校を選ぶかというのは、通常の状態ではないんです。ほとんどの子は、この小学校を出たら、この中学校に行くに住む場所で決まっているというのが普通です。どちらに行こうかというのは通常の状態ではないんです。そのことは、知っておいていただきたい。ただ、そういうふうにしてしまったのは教育委員会なのですけども。

【出席者】

それが本当におかしいんですよね。私たちが子供の頃には、そんな制度はなかったですから。

【出席者】

その頃、金杉台団地は子供が多くて、御滝中はどうだったか分かりませんが、そのなかで人に合わせてできた制度だと思うのです。

【管理部長】

なので、人が変わってきたので、変わり時ではないでしょうか。

どういう選択肢がいいのか、というところで小中一貫教育も、学区の変更も考えてきた。長い目でみると確かに10年ぐらいは2クラスでいけるかもしれませんが、10年後にまたこの議論が必要となります。1学年2学級は子供たちにとっていい環境なのかというと、先ほどは、推測でお話ししましたが、2学級になったとして、部活がそれだけ増やせるのか。サッカー部を作ればいいのか。という話もありましたが、仮にここで、校長先生、サッカー部は作れるんでしょうか。何人くらい入る可能性がありますか。

【金杉台中学校校長】

しかし、子供がいないので作れないだろう。

顧問も、誰かにやらせるか、できなければ自分がやるのか。

【管理部長】

校長先生が、バスケの同好会とサッカーの顧問を掛け持ちできるんですか。

【金杉台中学校校長】

これまで2回、掛け持ちしたことがある。

ただ、もう一人つけないと、同じ日に大会が重なったときに行けなくなる。

【管理部長】

入る子供は少なくとも11人は集まらない。

【出席者】

部活が作れないから学校をなくすのですか。

【管理部長】

部活が作れないから学校をなくすわけではないです。部活だけが教育環境ではないです。部活もあるし、クラス替えができる、できないとか、いろいろなことがあります。ただ、以前お配りしました学校規模・学校配置の基本方針にもありますが、小規模校はいい面もありますが、デメリットを否定できない。子供にとって環境がどうなのか。金杉台中学校の先生方が、本当に頑張ってやってらっしゃいますが、数がいないということは、学校の先生方の努力ではなんともならない。

にぎわっているところもありますが、たとえばサッカー部が作れないと。

【出席者】

〔略〕でサッカー部に入っている子がいます。御滝中が遠いので金杉台中に行きたいといって、同好会でやろうと、周りの子にも声掛けています。

【出席者】

部活の話ではない。金杉台中学校ができたのは、団地ができて子供が増えて、苦肉の策として御滝中の学区の中に金杉台中学校ができたのでしょう。推計では地区の人口が減る。これから空き家対策を一生懸命しなければならない地区。子供会は減ってきて、今子供会があるのはうちの町会だけ。子供たちをどういうふうに育てるかという観点で親たちは考えなければならない。子供たちをどういうふうに育てるかというときに、小さい仲間たちで仲良く過ごすというのもいいけれど、日本全体の人口が減る。外国人が入ってくることもある。そういうなかで、子供たちには調整能力をつけて、ときには戦って、対応していかなければならない。今後、大人になったときには幸せになれない。

子供たちをどういうふうに育てるかという観点なので、部活の話ではない。できるだけ多様性のある人間集団に子供たちを置いたほうが活力のある子ができる。

小さな集団で育てるのもいいけれど、これから人口が減っていくという社会環境を考えて、この地区が、市が、人口が減っていく時代、直面しているこの

状況の中でどう育てていくか。

【出席者】

船橋市自体は人口が減るのでしょうか。

【出席者】

減ります。何年先かな。市も減る。日本全体が減っていく。子供を作らない社会になってしまった。

基本的な議論をしなければいけない。人口が減っていき、学校数も減っていく。そういうときに、子供にどういう学校環境を提供していくか考えなければならない。そういうときに、小さい学校をいっぱい作るのかという話と、多様性のあるいろんなことができる学校を作るのか。部活の話ではない。

【出席者】

ど田舎行ったら、小さい学校いっぱいありますよ。

【出席者】

どういう子供たちを作っていくのかという議論をしないと。部活の話ではない。人口が少なくなっていくますし、統合しなければいけない時期は来ると思っています。そういうときにどういう教育環境を子供たちに与えていくか、考える。この地区で、御滝中を含めて、将来子供たちが何人になるか。この地区に2つ中学校があるのかどうか。という議論を考えなければならない。

【出席者】

そういう議論で統合を考えるのであれば、御滝中の人がないのはどうか。

【出席者】

もちろん、金杉台中でもいいです。金杉台中を中心にしてやるか、御滝中を中心とするか。どこに中学校を置くかという議論。ただ現状の位置を考えると、金杉台中に集まれという話もあるが、御滝中を中心に考えると合理的ですよね。

【出席者】

であれば、教育委員会は、統合を考えているんで、そういう方向に向けた考える会を開くのでは？

【出席者】

統合じゃない。人口が減っていく状況。

子供たちにどういう環境を与えるかということを考える会。統合を前提として皆さんの意見を聞いているわけではない。

【出席者】

統合はありきなんです。子供の立場に立てばやはり生徒数の多い学校に行くべきなんです。客観的に見れば。

【出席者】

確かにわかります。高校に入って、バーンといっぱいいる中に、いきなりもまれると大変だから、3年間御滝に行って、いろんな人や先生と関われるというのもわかるんだけど…。

【出席者】

親心としては？

じゃあ早めにそういう環境を作ってあげればいいのかでは。

【出席者】

ただ、金杉台中がなければ、選択がなければ御滝中に行くしかない。

【出席者】

そういう施策のほうがいいのかも说不定ね。

【出席者】

我が子は何遍も話しますが、金杉台小・中学校の卒業です。上の子は硬式野球がやりたかったので、校外活動に入りました、1クラスでしたけれど、なに不自由なく過ごしました。高校は大規模の私立に行き、不自由はなかったです。そこで人間関係に問題あるのかといえありませんでしたし、何百人いるとしても、付き合うお友達是一部。全員と知り合うわけではなく、全部の先生と知り合うわけではなく関わるのは大規模校でも小規模校でも同じです。ただ小さい中学校だったので、先生のこと子供たちのことも知ってもらえ、手厚く教育を受け、巣立ち、社会人として普通に育ったので不自由していません。人間性としても。

下の子は卓球部。3～4人しかいなくて体育館は占有で練習し放題。強くはならなかったけれど、卓球がいっぱいできて大好きになりました。やりたいことを見つけて高校を選び、高校でも卓球部に入りました。そこで顧問の先生にい

われたのが、基礎ができていると褒められ、3年間やったら県大会にも出れました。学業にも結び付きますが中学校は基礎づくりをする。基礎づくりするために部活も必要であれば、部活のことも盛り上がってもいい。中学校の義務教育の期間で、子供たちのどういうところを伸ばせばいいのか。本人に気付かせることが必要。それに部活が必要だったらいいです。一番大切なところが置き去りにされています。

御滝中は飽和状態なくらい規模が大きい。そこはそこに適した教育方法があります。小規模は小規模校で適した教育方法があります。どちらもその特色を伸ばしていくことが必要。

1学年1学級が足りないというのなら、自治会では空き家対策を何とか対応しようと動いている。空き家2割が子育て世帯で埋まったらどうなるかという推計は取っていないでしょ。それも視野に含めてこちらは活動しているわけです。

【出席者】

子供たちの多様性というのは大事だと思うんです。

今のお話は、あなたの子供の事例ですよ。義務教育ですから、同じ教育環境を与えてあげたい。御滝中と金杉台中で違う教育環境を与えるのではなく、同じ環境を与えたい。大事なのは多様な人間関係を早く経験させることです。

あなたのお話ですと、お子さん自身の能力の問題であり、野球は学外のところで対応した。義務教育ですから同じ学校の中で与えたいというときに、小さな学校で部活も十分できないところ、いろいろな人と付き合えない状態よりも早く多様性のある人間集団に置いてあげることが親としての責任ではないでしょうか。多様性というのは大事です。

【出席者】

多様性というのがすごく漠然としています。多様性とは何ですか。

【出席者】

多様性というのはいろいろな考え方を持つ人。その人間集団の中で動いていくということを子供たちに積ませるかどうかが。

【出席者】

御滝中には美術部がないんですね。金杉台中は美術部がある。

【出席者】

部活ではなく、多様な部活を置いてやることのできる空間があることが必要。

【管理部長】

もし統合をすると決めたのであれば、金杉台中にしかない部活をどうするかということはもちろん検討することです。では御滝にも美術部を作ろうかという話は出てくると思います。実際に作れるかは検討始めてみないと分かりません。そういうことを、統合する場合には検討する組織を作っていこうと思います。

【出席者】

大きなところにみんなが集まれば多様性が身に付くというのは、違うと思う。

【出席者】

身に付くかどうかではなく、多様な集団の中で育てていく必要があるということ。

【出席者】

今、御滝中に大勢入れるのは困るよという話ですよね。満杯になるから。金杉台中学校のほうへ回してもらいたいという話になっているわけでしょ。

【教育総務課長】

まだ、御滝中としては、教室数はあります。市全体のルールとして教室の数が少なくなってきた場合には、部活を理由とした変更はできないというルールでして、御滝中自体はピークでも1000人は入れますので、金杉台中学校のお子さんがみんな入っても不足することはございません。

【出席者】

では、この表はいらんではないですか。

【教育総務課長】

どういう状況であるか理解していただくために推計しています。

【出席者】

そういう推計が、はなからないのであれば、試算はいらんのではないのですか。

【教育総務課長】

前回いろいろな質問があったので、つけさせていただきます。

【出席者】

そもそのこちらの意見とは離れている。

【教育総務課長】

考える会なので、皆さんからも考えていただいて、いろいろあると思います。金杉台中の規模が、我々が国の基準などから考えてみて、とても適正な規模ではないので、この会を開いて、学区変更したらどうかとか意見をいただいたので、推計させていただいたんですが、将来若干増える時期はありますが、結果的にはあまりということとなった。

そうすると、2月の第1回目のときに、ほかの市はどうなんですかという意見があり、札幌市に市議が視察に行ったこともあり、向こうも少子化で児童数も少なくなってきたのでの向こうの統合の状況はどうだったのか教えてくださいという意見がございましたので、その辺のことも今日お話させていただこうと思います。

【出席者】

統合を考えているので、といってくれたほうがいい。考えが違うんだから。一つとしては統合を考えているので、ということか。

【事務局】

ほかの中学校との関係とか、周辺校の様子を知りたいというお話もありましたので、【資料1】の5ページにまとめましたのでご説明させていただきます。

【教育総務課長】

それでは、【資料1】の5ページをご覧ください。

教育委員会では、国の手引にも、特に標準を大きく下回る場合においては、学校統合等により適正規模に近づけることが可能かどうか検討することが必要と述べられていることから、学校規模・学校配置に関する基本方針を定め、それに基づき、その対応策を検討する必要があることについて、第1回考える会にてご説明いたしました。

そこで、対応策のひとつとして考えられる統合により、一定規模の教育環境を確保することが可能になるのか、周辺校の状況についてご説明いたします。

【表1-4】に周辺校についてまとめました。

なお、金杉台中とそれぞれの学校との位置関係は、【資料2】の1ページ、【図

2-1】にある緑色の線で囲まれた黄色の場所として示してございますので、参考にご覧ください。

【資料1】の【表1-4】にありますとおり、旭中と高根中については、どちらも、通学距離が遠くなること、現在、金杉台小学校の児童にとって旭中と高根中を選べる選択地域が設定されていないため、小中学校とのつながりが薄い等の課題があると考えています。

御滝中については、金杉台中の通学区域が御滝中の通学区域に包含されていることから、通学距離の観点からの課題は少ないこと等があります。

【資料2】の6ページにあるように、金杉台中と御滝中の推計を単純に合体した場合、生徒数は平成35年度をピークに、その後減少に転じるという推計となります。

もし、統合するとした場合の時期等については、現時点では未定でございますが、統合となる関係校との事前交流や諸々の準備事項を協議することになると想定しています。

それでは、続いて、【資料1】の6ページをご覧ください。統合についての他市事例をご紹介します。第1回考える会で、市議会文教委員会が札幌市を視察した際の内容を聞きたいとの話もございました。ここでは、札幌市の事例について、視察に同行しました管理部長より説明いたします。その他の事例等については概要を示しておりますので、ご一読ください。

【管理部長】

他市事例の一つとして、札幌市の例を簡単にご説明させていただきます。

資料は2の7ページをご覧ください。

昨年11月に市議会の文教委員会の視察の随行で、「学校規模適正化の取組について」というテーマで、4つの小学校を統合して開校した札幌市立資生館小学校に行ってきました。

調査事項の1つ目は(2)の1)「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」についてです。

①基本方針の概要では、中学校の適正な学校規模を国の基準と同じ「12～18学級」とし、加えて「少なくとも6学級以上」としています。その理由は、枠の中に引用しましたが、中学校は教科担任制であることと、多様な部活動を成り立たせるという観点です。

次に、適正化の検討が必要な学校は、中学校では6学級未満が見込まれる中学校としており、クラス替えができるかどうかを見ています。

適正化の手法は、学校の統合と通学区域の変更とし、通学区域の考え方は、中学校では徒歩で通える範囲としておおむね3kmとしています。

8 ページの②小規模校を統合するのか小規模校として存置するのかは、基本的には統合としています。通学区域の変更については、統廃合以外の事例はない、通学区域の変更は負担が大きいとしています。

次に、学校統廃合についてです。統合の効果ですが、小学校の児童にとってはプラスの評価が多かったようです。教員では、資料にあるほかは、良いか悪いかだと「良い」のほうが多いのですが、「どちらともいえない」も多かったようです。

③統合後の校舎等の活用については、札幌市全体の例ですが、一つ目は公のまま使うもの。二つ目は公民複合の例で、内容は公的な目的のもの。三つ目は民間が活用する例で、NPO に貸出したり、条件付きで法人に売却したりしています。法人への売却例では、地域の交流スペースを設けたり、避難所などの防災機能を必須にしたり、体育館を地域で活用できるようにといった条件を設けています。

9 ページをご覧ください。具体的な資生館小学校への統合についてです。平成 12 年度に懇談会が意見書を提出して行政が統合案を提示し、平成 13 年度に統合に伴う新校舎建築の設計費が付き、平成 16 年度末に 4 校が閉校し、平成 16 年度に資生館小学校が開校したという経緯です。

地域への説明については、4 校をまとめてすすきのという繁華街に新しい学校を作るということもあり、かなりの反発があったようで、合わせて 70 回の説明会を開催したそうです。今は反対の声はないそうです。

主な質疑応答は、記載のとおりです。

最後に 10 ページですが、資生館小学校にはメモリアルホールがあり、統合前の 4 校の様々なものが展示されていました。

説明は以上です。

【教育総務課長】

札幌市の事例は以上ですが、札幌市に限らず、県内でもこういった形で対策を取っているということが増えています。

先ほどの船橋市の人口のピークですが平成 37 年といわれており、それから減少に転ずるといわれています。なかなか、子供の数が増えてというのは難しいのかなと思います。

第 1 回に出された意見とそれに基づいて、第 2 回、第 3 回と意見をいただき推計などさせていただいたところで、まとめさせていただきます。

小中一貫教育については、教育委員会としては、これまでの研究を通して小中一貫教育校を設置するのではなく、学区が複雑な地域では、連携教育を進めていくという方向性で進めていること、学区については、居住地により予め通

学指定校が指定されているが、一部地域については、地域の実情に応じて選択地域が設定されていること、そのようななか、金杉台中の指定学区を拡大したり、選択できる地域を拡大する等の4つの変更案について、推計した結果、どの場合においても生徒数の増加は一時的であること、その推計には、この周辺地域の最近の宅地開発についても、反映されているというところです。そして、統合という対応策については、金杉台中の通学区域がそもそも御滝中の通学区域に包含されていることから、通学距離の観点などからみて、ほかの周辺校に比べ、課題は少ないことがいえるかなというところです。

皆様にとっては、残したいという気持ちがあり、その理由も重々わかるところで、合点がいく説明ではなかったかもしれませんが、金杉台中の生徒数が減少している現状や、ご意見にもありましたように、子供たちが多様な価値観を持ち、考えに触れ、切磋琢磨できる教育環境を確保するためにどのようにすべきか、という視点でご説明させていただきました。

これまでの内容を振り返って、今どのように考えていらっしゃるか、お話いただけたらと思います。

【金杉台小学校校長】

文科省は、適正規模は中学校で12～18学級といわれています。これから5年間、御滝中はこれからも増えて、適正規模から外れています。

平成36～37年に市全体が減ってくるということであれば、全市的な問題なので考えなければならない。ただ、これから御滝中が増えていくというなかで、1学年10クラスは大変かなあと。これから増えていくがそれ以降は減ってくるその頃は考えられる。今はそれよりも御滝中が増えてしまって困り感を感じてしまうわけですから、今は学区変更をしっかりと、金杉台中が6学級なり維持できる。5年後にまた考えるということが正しい筋としていいのでは。

【管理部長】

御滝中は規模が大きくて困る部分もありますが、その間、金杉台中の子たちは、その期間、多様な環境に子供たちが入れないということが続くことになり、多様な環境に触れられない状況が続く。

【出席者】

小規模はダメという言い方がちょっと問題です。

【管理部長】

比較した場合、多様性に触れられたほうがいいと思います。

【出席者】

触れられなければその子の人生はそこで終わりではない。

【出席者】

性格によって違うと思います。御滝中は人数が多くて嫌といっています。

【管理部長】

今は選べる状況で、どちらがいいといえるけれど、2年たったら、御滝中へ部活を理由に通学指定校変更ができなくなる可能性があり、小規模を強制する時代が来てしまう。教育委員会はまだ時期はいつとは全く考えていないが、小規模が存続して小規模しか行けない状況が生じることと、小規模のデメリットと大規模のデメリットを比較して、全体が良いことを目指したい。

御滝中の子の教育環境が悪化することは避けたいけれど、60人が行ってどれほど悪化するかということと、金杉台中の子が部活などで通学指定校変更できないという状況とを天秤にかける必要があると思います。

【出席者】

多様性ということが出ていますが、私は我が子しか育てていないけれど、特別とは思っていない。実際に多様性を求めて大きな学校に行って、不登校になってしまう子もいます。そういう子たちの救済策はどうなるんですか。

小学校の統廃合の話ですよね。小学校と中学校では全然異なります。小学校の6年間に統廃合して大規模になりクラス替えがあつて、卒業するというのと、中学校のわずか3年間の間に統廃合して次の進学先に行く、小学校の統合の事例を持ってこられても、中学校の事例とその後を説明してください。

12～18学級が理想といわれますが、御滝中も現時点で21学級となっている。統廃合をしたら、さらに1～2学級増えるのですよね。御滝中学校の問題だとは思いますが、本当にそれでいいんですか。御滝中にもPTAがございますし、子供がそろってそれなりに人数がいれば学習の場としていいっていうわけではない。目が行きとどかなくなります。部活の話に戻ると、レギュラーになれずに悶々となる子はどうすればいいんですか。それでもいいのですか。

【管理部長】

個別の話は、子供たちそれぞれ個性もありますので、レギュラーになれず悶々とする子がいれば、金杉台中で試合に出れずに悶々とする子もいます。

【出席者】

人数を集めて野球部、サッカー部、9人、11人で頑張ればいいんじゃないかというところで生まれるものもある。

【管理部長】

ちなみに金杉台中の野球部は何人いますか。

【金杉台中学校長】

2人です。

【出席者】

現時点の話ですよ。

【管理部長】

そういう個別の話をしてしまったら、全て個別の話になってしまう。レギュラーになれず悶々とする経験も、人によってはいい経験となることもある。

【出席者】

人によってはですよ、個別の話になってしまうじゃないですか。デリケートで人間関係に弱い子なので、小さい学校で過ごしたいという子も少なくはない。統合されてしまったら、大規模校に行かなければならなくなります。個別の話で済むんですか。人間ひとりひとりの話です。義務教育なんですよ。小さいなら小さい、大きいなら大きいと特徴を生かしながら行けばいいのでは。この地区は2つしかない。全く違う特徴を生かしている。小中一貫が叶わないから連携教育を研究指定校としてやってきている。合同のスポーツデーをやるなど人数の少なさをやりくりしてきたという地域。そのなかで育ってきた。それの何がいけないのか。とてもいい事です。ちょうどいい人数。統廃合の話も出たが、本気で残して行こうというのであれば、小中一貫でもいいんじゃないですか。小中一貫でも、多様性は身に付けられる。

【出席者】

小中一貫はすごくいいことですよね。多様性というのは、いろんな人と付き合っていく経験を、小学校、中学校から鍛えていく。外国人の価値観の違う人たちと話していくのは大変ですし、宗教の違う人たちと付き合っていくかなければならない。人口が減っていくとそういう人たちと一緒に住んでいくことになる。

いろいろな意見があつて、うまく調整していく能力や自分の発言力を鍛えていく。そのためにしっかり考えることも大切です。最終的に民主的な社会において子供たちをどう育てていくか、という上で多様性という観点が必要です。

【出席者】

御滝中に行ったお母さんからは、「うちの子の学校では卒業するまで先生のことなんて知らない」といわれたことがあります。「金杉台中は小規模ながら何十人の教職員がいて、先生も生徒もみんな知っていていいね」といわれます。結構子供は大人のことを見えています。人間を見る目は大人を見て育つ。社会に出ると、同級の人と同じ職場で触れ合うことはあまりない。年齢の違う世代間交流を幼いころから身に付けさせることになり、そういう強みは育くまれている。小中連携教育の良さでもあります。

数のバランスの問題だと思います。御滝中の方の意見はわかりませんが、困りませんということはないと思うので。それも含めての統廃合の話で、私たちだけの話を聞いていても決められないのではないかと思います。

【出席者】

多様性とおっしゃいますが、うちの子は3年間金杉台中でお世話になりました。選択できる学区なので本来は御滝中なんですが、金杉台中がいいということで、金杉台中に来ました。

〔略〕まじめに練習していたのがうちの子だけだったのでキャプテンになってしまった。そういうタイプの子ではなかった。御滝中だったらキャプテンにはならなかった。本人も悩み葛藤がありましたが、御滝中だったら経験できなかったことが、金杉台中で人数が少ないなりに経験できた。人数が少ないなりに、大人数では経験できなかったことも経験できるので、一概には多いほうがいいといえない。

【出席者】

金杉台中も残そうとはできないんですか。

【教育総務課長】

教育環境ということをして市全体の立場で考えますので、教育の機会均等ではないのですが、条件は一緒にしたい。少人数のメリットは確かにあります。場所によってはとてもじゃないけれどほかの学校には通学できないところも船橋にもあるので、残さざるを得ない。ここの地域では、御滝中というチャンスもあります。南部のほうでは大規模校が目白押しですから、市としては同じレベル

の教育環境を整えたいということがスタンスです。

【出席者】

この地区では、中学校の片方は大きく、片方は小さい。中学校が一つだったらこういう議論はないですよ。我々の時代では小学校1年生のとき、16クラスありました。1クラス60人、中学校は8クラスで50人でした。〔略〕議論をいろいろ聞いていると贅沢です。僕らの時代、〔略〕も同じ世代だから苦勞してきたのでは。プールもない。体育館もない。高校では体育館はあったがほかの部活が使っていると使えないので外で練習。

統合しなければならない時代になってきている。国のほうでも1学年3学級など基本が決まっています、市でも決めている。どこで妥協して、地域の人が行政とバランスを取って暮らしていくか。最終的には子供が決めることで、学校が一つだったら子供はそこに行きますよ。

議論を聞いていると親のエゴ。こっちの子供の数が少なくてこっちに行かせたい。いや、御滝中に行かせたい。最終的には子供が決める。

先ほど聞いた部活の話でバスケットやりたくて行った、でも挫折してしまっただ。で、やりたくない部活をやらなければならない。かわいそうです。

だから御滝中になってしまえば、部活にも自由に入れるし、途中で変えられる。私は高校に入って軟式テニスに入ったけれど、玉拾いばかりでやめてしまった。そしてバレー部に入ってベスト8にも入り、遠征にも行った。〔略〕

子供のためには統合やむなしかな。ずっと見ていて、10年たっても人口ほとんど変わらないし。子供のために。教育委員会は子供のためにある。

【出席者】

挫折することは大事ですね。

【出席者】

私も挫折しましたし。小学校の同級生と付き合っていて、中学校も一緒だった同級生もいます。クラス会は必要ですね。子供は先生のことを覚えています。特に卒業年次のときの担任のことは。印象に残っているのは2・3年生の担任。6年生のときの先生も、休みの日に自宅に泊めてくれたりした。そんな時代だった。

やっぱり子供のためを思うと、しょうがないと思いますけど。どうなるか分からないですが。

【教育総務課長】

この件につきましては、より多くの地域の方のご意見を伺っていくことが大切であると考えておりますことから、地域の保護者等を対象に、地域説明会を開催し、この考える会で意見交換したことをご紹介しながら、より望ましい教育環境のために考えられる対応策についてご説明をしてみたいと考えております。

日程は、秋頃を目途に開催する方向で調整したいと思います。詳細固まりましたら、金杉台小学校及び金杉台中学校や近隣の保育園、幼稚園や町会・自治会の回覧版等を通してご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。

【出席者】

結局は、こういう会を開く必要がなくなった。

【教育総務課長】

色々な意見をいただき、統合の話、一貫校や学区の話ですとか検討してきた。

【出席者】

検討はされていないですね。話を聞いてもらいましたが、結局は統合に向けて、地域の主要なメンバーとの会議を何回か開いて、理解を得ましたので、つきましては、住民説明会を開いてこの地域はこういうふうになりますというように持っていくということですよね。

【教育総務課長】

意見をいただいている段階なので、理解を得ましてとは言いません。

【出席者】

私たちは自分たちに絡む意見をさせていただくしか言えないわけです。

【教育総務課長】

資料に付けさせていただいていますが、ニュースのような形でそのまま、こういう考えが出ました。推計も出ました、と紹介していきたい。

【金杉台小学校校長】

前回7月12日のときの資料を持っているのですが、そのときには今後の内容としてアンケートを実施します。金杉台小学校5・6年生、中学校1～3年生とその保護者を対象とし、10月に第4回考える会で、アンケートの結果を分析しますとあります。そういったことについては、今日の話し合いにはないのです

かね。

前に明言し、決めたことをきちっとやっていただかないといけないかなと。

【出席者】

私は確かに PTA なり地域の代表です。ですが、これが総合的な意見として取られては困る。

【金杉台小学校校長】

皆さん全員が知ってから地域説明会にもっていかないと、というところできとまったと思うんです。

最終的な結論はあってもいいのですが、それに対して、私たちが話し合いの場で確認してきたことが飛んで行ってしまうというのは困ります。

【出席者】

学校で話し合ったときですよ、アンケートの話が出たのは。小学校で数人での話し合いです。

【事務局】

やり方の一つとして、どこかでアンケートという方法もありえるという話です。

【金杉台小学校校長】

その後はどうなったか。

【出席者】

全体が、こういう話をしているんだよというのを知った上でないと、この方々はわかっているけれど、ほかの学年のお母さんなどはわからないですよ。

【事務局】

そのための資料として、考える会ニュースをお配りしたいなと思います。

【金杉台小学校校長】

ではアンケートは視野にいれない？

入れないのであればどうして入れないのか聞かせてほしい。

【管理部長】

アンケートの話は、この会ではなくて、事前にお話させていただいたときの話ですよね。

【出席者】

全体的ではなくて、学校で打ち合わせをしたときです。実際に行く子たちがどう思うかなど、近い年代でいうと6年生など、地域の幼稚園生にも中学校をどう思いますかということを私からやってくださいと提案しました。

【金杉台小学校校長】

実際、今の6年生については、御滝に行くか金杉台に行くか、希望を取ってしまっています。来年の金杉台中は何人と決まっています。

【管理部長】

アンケートの件については、ここの会での話ではなく、事前に話し合いを行った際の話なので、別にご相談させてください。

やれるのかどうかも中で考えて検証したのですが、まとまりませんでした。なかなか難しいなというところです。少なくとも今日、アンケートをやるという提案は上がっていないです。もしやらせていただく場合は小学校・中学校と個別にご相談させてください。

【教育総務課長】

ここに出ていらっしゃらない方に対してアンケートを取ろうとした際に、理解していないので、説明しなければアンケートも難しいですよね。

また、逆に、説明をしたうえで、アンケートをすると、「ああ、なるほど」ということでアンケートに影響してしまう。ゴミのアンケートの話もありまして、船橋市の中で、アンケートの見方について疑義が生じてしまった事例があります。手法としては考えられるなど検討していた段階で、ほかの事例でアンケートのやり方で偏ってしまうのではないかとということもあるため、検討をしているところです。

【出席者】

ここの場合は、フリートーキングの場であるのでいいですが、地域に説明に行くのであれば、もう少し市の見解を示されなければならない。跡地のこともそうです。教育委員会では無理かもしれませんが、バックボーンのほうを押さえておかないと、地域に説明に行っても何もならないと思います。

こういう場合にはこうしますといってもらわないと、例えば避難所の話も出

ましたが、地域の大事な施設であることは間違いないので、納得できない。地域の特性を生かした施設にするといった説明をしていただかないといけない。

ここの自然も貴重で斜面林と湿地がある。自然環境を活かした自然博物館のような学校施設にするなど、ある程度具体的なものを提供していただき、跡地は教育委員会だからできませんというのでは、地域に説明しても答えが出てこない。

【教育総務課長】

関連する課も状況については伝え、説明会に一緒に出られるようであれば、連れてくるようにします。

【管理部長】

統合するということになれば、美術部がなくなってしまうという話もありましたが、どういうふうに統合していくべきかなど検討する必要がありますし、跡地をどうするかは市長部局の範囲になりますが、私たちも一緒に地域にとってどうしていくかということは検討していく必要があると思っています。

【出席者】

統合するとなればというお話は、いつされるんですか。考える会でこのように話し合っていますが、私たちはそれぞれの立場で言い切れない。私は反対の立場で話していますし、[略]は、統合はありきという立場で申しあげています。

こういわれたからこうしますというところまでは責任を持ってない。地域のほうに投げかけようといわれていますが、一般市民はどうせ行政がすることだから、話を持ちかけられたら方向転換できない、決まっているんだなと思いながら聞きます。行政と相對することはありますが、反対してもそういうものなのかな、と思います。言い切らないのは、ここに並んでいる方が決定するものではないからです。

【管理部長】

統合いつするのかという話ですが、考える会、地域説明会をやって皆さんの意見を聞いて決めていくことです。まだ、いつ統合するのか、いつ決めるのかと、二つ段階がありますが、慎重に考えなければならない。御滝中の状況もありますので、慎重に考えなければならない。

【出席者】

このままでいこうということもありますよね。

【管理部長】

はい、あるでしょう。

【出席者】

地域説明会といっても、御滝中学校の人たちも対象となりますよね。

【管理部長】

決まっていないとは申し上げましたが、こういう会を開いているということもあり、今の状態がいいとは思っていません。話が戻りますが、御滝へ部活で指定校変更して行っても苦しんでいるという声も入ってきていますので。

【出席者】

苦しんでいることをいろいろと聞いている。保護者としては嫌です。選べる地域があることが問題。なくて行くところが決まっているなら、子供もすんなり行く。

【出席者】

金杉台中だけしか行けない人たちには、校長と面接して行く、という制度を全て取っ払っちゃえばいいのでは。（制度は）市役所が決めているんですよね。

【出席者】

説明会を開くとかこういう話がたくさん出る。それを踏まえてこのまま存続するという選択肢も外さないで話を進めていただければいいと思います。

【出席者】

それを外すと、この会は必要なかったのかなと。

【管理部長】

子供にとってのいい教育環境は何なのかということが一番という点では、揺らいでいないと考えています。

【出席者】

せっかくこういう会を開いているので、こういう意見にも耳を傾けるつもりで開いていると解釈しますから。

【管理部長】

統合するにしても、皆さんがどう考えているか、聞かずに進めることはない。

【出席者】

統合ということがよくわからない。例えば、何月からあっちに行く。なのか、何年生からは金杉台中は取らないとなり、1年生のときは3学年あるのが、だんだん2学年、1学年と減るのか。

そうすると、ぶっちゃけ自分たちの子の代ではやらないでほしいと思ってしまう。

いずれかそういうふうになるんでしょうけど。それならば今の1クラスだけのいい環境でもいい。

【出席者】

房総の保田中学校が統合し、道の駅になっている。こちらとはちょっと違いますが、地域に何かを残してもらわないと先行き困る。

【事務局】

これからもいろんな意見を聞きながら、進めていきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、終了時間をまわりましたので、第3回考える会はここで終了とさせていただきます。

【出席者】

ニュースは学校配布ですか。自治会配布ですか。

【管理部長】

両方考えています。

【出席者】

自治会配布だと、選べる地域の新しくなった地域は自治会がないので、見ることが出来ない。

【管理部長】

学校で配布する予定です。地域では回覧板になるかなと。

【出席者】

一番関係する方々に見ていただかないと。

【出席者】

内容ですが、こういう議論をしましたということが書いてあるということですね。市がこう考えている、ということではないですか。

【管理部長】

本日の件もニュースとして出しますが、ニュースは皆さんからいただいた意見をまとめたものです。

【出席者】

第4回はありますか。

【管理部長】

地域説明会をやってみてからかなと考えています。

【出席者】

次やるときは、金杉台中を考える会ではなく、統合を考える会なのではないですか。統合を考えるのは、私たちの意見ではないですよ。実際に必要とされるのは、実際に統合を予定している時期の親御さんとかでしょうか。

【事務局】

本日はお忙しいなかご参加いただき、誠にありがとうございました。